メコンの姿
～四千の島々～

「シーパンドン」とはラオス語で四千の島の意味。メコンはカンボジアとラオスの国境あたりで大きく広がり、まるで海のように島々を抱える。人はその島々の上の村でコメを作り魚をとって暮らす。雨季、人々は河をめぐる魚を求めてリーと呼ばれる簗（やな）をすさまじい濁流にかける。流されたらまず命はない。乾季に干上がってしまう河で、リーは慎重に準備される。

（表紙：シーパンドンの人々は、漁の時期村に戻らず川辺に小屋を建て暮らす　撮影：木口由香）

目 次

メコンの姿　～四千の島々～　2

特集：ODA 改革へ向けて ～メコン河流域開発、環境・人権への影響～　4

開発ラッシュのメコン流域と ODA　5

カンボジアにおける強制立退き～開発援助のこれまでとこれからを考えるために　8

ビルマ－「軍事独裁援助」からの脱却　14

貧困削減？ 貧困の創出？－ラオス・ナムトゥン 2 ダムに見る開発援助の問題　19

誰のための援助、という古典的な問い－タイの事業に見る援助と評価　24

「事業仕分け」から考える、現代日本の ODA　29

レポート

ベトナム・ソンブン 4 水力発電事業が地域社会と環境にもたらす影響　32

人々の物語（2）　魚の声　38

風景を切り取る 広がる外来　39